

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援はろ		
○保護者評価実施期間	2025年 4 月 1 日		～ 2026年 3 月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2人	(回答者数) 1人
○従業者評価実施期間	2025年 4 月 1 日		～ 2026年 3 月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	指導員の年齢層も幅広く、元教師、保育士、塾講師など専門職経験者が指導員として子どもに関わっている。そのため、多様な視点から子どもの状況や発達について捉えることができる。	利用者さんの状況や課題をそれぞれの立場から目を向けて意見交換を行っている。さまざまな視点で関わることで支援内容を整理し、職員全員が利用者さんの全体像を把握できるようにしている。	事業所内だけでなく、相談員や他の事業所と連携を図り、利用者さんの状況や課題をさらに詳しく理解していく。その中で、今後の方向性や事業所としての役割を見出ししていく。
2	利用者さんの年齢層も未就学児から高校生まで幅が広い。それぞれの発達や課題に合わせたプログラムを作成し、個別に提供することができる。また、現在の取り組みによって異年齢間の交流も生まれている。	学習やSSTが遊びの中でも学べるよう工夫して教材づくりをしている。子どもの様子に合わせてプログラムを組合せ、さまざまな場面で対応できるものを作ろうとしている。	支援内容が表面的にならないよう、それぞれのこどもの課題に目を向け、具体的な療育方法を検討する。それに合わせたプログラムを職員全体で考えていく。
3	机上の学習だけでなく、ゲームプログラムも充実しているの で、ゲームを通して学習やSSTを行うことができる。アート活動の材料も充実しているので自由に自己表現することができる環境を整えている。	ゲームやアートプログラムの教材を充実させ、できるだけ子ども達が自由に選択できるよう配慮し、自主性や選択する力を育てることにつなげている。	職員一人ひとりのスキルアップを目指して研修を取り入れることで、子どもへの支援の質の向上や充実を図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援少人数支援が中心となっているため集団での活動機会が少ない。特に同年齢のまとまった集団活動の時間がとりづらい。	少人数、個別支援を希望して利用者されている方が多く、それぞれ希望する時間もさまざまなので時間調整も難しく、同じ時間帯に集団で支援することが難しい。	イベント的な形で別日に設定して集団で活動できる機会を設ける。SSTやアートなどのプログラムは時間を調整し、できるだけ集団で取り組めるようにする。
2	地域との連携が十分に図れておらず事業所の存在が地域にあまり知られていない。	個別、少人数の支援が中心なので、地域と関わる機会を個別に設けることが難しい。	玄関先に季節に合わせた装飾は地域の方と関わる機会になったので続けていく。また、地域で開催されるイベントに参加したり、地域の方が来所していただけるイベントを考えていく。
3	室内のスペースには限りがあるので活発な利用者さんのために、粗大運動を取り入れたいが、限界がある。学習スペース隣接しているため大きな音の出る運動は難しい。	運動遊戯のスペースと学習スペースが接近しているため活動内容に制限がある。	ヨガやストレッチなど、室内でもできる運動プログラムを考え、取り入れる。職員体制を整えて外出する機会も増やしていく。